

光市医師会

# 光市医師会報

平成16年12月号

No.368



光市医師会

<http://www.yamaguchi.med.or.jp/users/hikarishi/isikaihp/hikari.htm>

## ガード下のドイツ居酒屋

クリニック高橋眼科 高橋秀児

学会にモーニング（アーリーバード）、ランチョン、イブニングセミナーは付き物。最近ではティータイムセミナーも登場。11月の臨床眼科学会（日本眼科学会総会と双壁）ではランチョンでメーカー独自のトートバッグまで配られるありがたさ？しっかり勉強は出来ますね。

大きな学会の東京会場といえば、やはり国際フォーラム。1996年に旧都庁舎跡に完成。設計はウルグアイ生まれのラファエロ・ヴィニオリ。東のガラス棟は「遅れてきたバブルの遺産」と揶揄されています。

さてイブニングセミナーが終了して小腹が減り、ちょっと立ち寄るお店を紹介しましょう。JR有楽町駅で国際フォーラムに一番近い出口から新橋駅に向かって520歩のガード下に店はあります。ビアホール？と云っても明治32年創業の銀座7丁目のライオンほどの古さも広さもない。しかし落ちつける雰囲気は十分。2人席の壁側に座り、とりあえずはビール300mlで十分だ。人気 No. 1のビットブルガービルスにソーセージボイルミックス3種を追加。マスタード2種にドイツパンのスライスが2切れ付いてくる。ソーセージを食べていると、記憶の片隅に残っていたのか、教養部の独語のプロット先生を思い出した。ゆっくりと時は流れ、一人で飲みたい店でもある。BGMがJAZZの寿司屋もあるが、ここで何が流れていたか、記憶がない。たかがビールで酔いが回ったわけでもあるまいが・・・

## ドイツ居酒屋 《JS・レネップ》

プレミアムビール、ドイツパン、B. スuppe（豆料理）、ポテト料理、ピザ、ソーセージ、田舎料理（ポテトファンクーフェン、ゲーラッシュ、牛肉のビール煮込み）、ジャーマンオムレツ、ピリ辛チキンライスなど。



## 今月の医師会長

11月 4日(木)	就学児健診 介護認定審査会	(三井小) (アイパーク)
11月 5日(金)	麻薬免許更新	(医師会事務局)
11月 9日(火)	理事会	(医師会事務局)
11月11日(木)	歯科医師会との打ち合わせ	(医師会事務局)
11月13日(土)	ARBフォーラム	(広島)
11月14日(日)	周南医学会	(下松)
11月20日(土)	水木元市長通夜	
11月21日(日)	光市三師会旅行	(福岡)
11月25日(木)	光市社協評議会 周南3市医師会役員会	(アイパーク) (松原屋)
11月28日(日)	国民皆保険制度を守る山口	県民集会 (山口県総合保健会館)
11月30日(火)	学術講演会及び例会	(光商工会館2階大会議室)



## 11月の医師会活動

- |                            |             |
|----------------------------|-------------|
| I. 9(火) 定例理事会              | 医師会事務局      |
| II. 25(木) 平成16年度周南三市医師会役員会 | ホテル松原屋      |
| III. 30(火) 学術講演会及び例会       | 光商工会館2階大会議室 |

### I. 定例理事会

議題：

#### I. 報告事項

1. 郡市学校保健担当理事協議会報告(10/14) (平岡理事)
2. 郡市産業保健担当理事協議会報告(10/21) (平岡理事)
3. 定例代議員会報告(10/28) (河村会長)
4. 新潟県中越地震災害救援義援金  
3万円新潟県医師会に送った。(河村会長)

#### II. 協議・承認事項

1. 周南三市医師会役員会について  
今年は光市の受け持ち。11月25日松原屋
2. 検診について(子宮癌、乳癌、胃癌、基本健診)  
期間を7, 8, 9月にしてはという市からの問い合わせがあった。

### 資料① 郡市医師会学校保健担当理事協議会

日時:平成16年10月14日午後3時～

場所:山口県医師会館

(議題)

#### 1. 16年度中四国学校保健担当理事連絡協議会

資料1、県医師会報参照

学校認定医について;日医としては県医師会の70%が賛成すれば正式に動き出す予定。  
まだ動いていない。

結核検診について ;海外に長期滞在した人は要注意 発見率は0.003%。問診だけでもツ反をしていた時期と同程度の患者が見つかっており、一定の役割は果たしている。

#### 2. 16年度中国地区学校医大会

資料2、県医師会報参照

#### 3. 学校・地域連携推進事業について

・日医は、この制度を使って専門医(精神科その他)をコンサルタントとして派遣する事業を進めていくように医師会報に書いてある。

・県教育委員会は別紙の第一次募集の一覧にあるように学校から→医師、医師会、専門家に依頼して→教員、養護教諭、生徒に対して何らかの講義をするシステムとして認識している。

以上のように制度に対する認識にずれがあり、県医師会の浜本常任理事も「私も認識がずれて考えていた部分があったようです。」と話す。

・すでに何件か、医師会員の医師に依頼が行っているが、個別に依頼されているので、郡市・県医師会は把握できていない。できれば依頼の際は何らかの形で医師会を通して依頼する方向でお願いしたい。

・各医師会員には、県教育委員会の予算から、上記下線の様なシステムが本年度からできて、学校側が

ら依頼がある可能性があることを周知していただきたい。

#### 4. 学校医認定制度について

- ・大阪府では本年より学校医認定制度が開始され、単位取得制度や登録制度になった。
- ・主な目的は学校医の活性化にある。
- ・山口県医師会としては、単位が取れないからといって学校医を認めないとか定年制を導入したりとかいう考えはない(浜本理事)。

### 資料② 平成16年度郡市医師会産業保健担当理事協議会

日時:平成16年10月21日(木)午後3時～

場所:山口県医師会 6階会議室

労働者の健康と安全を守るために、過重労働による健康障害防止対策について協議された。平成15年の過重労働による脳・心疾患の労災認定が310件以上、精神障害の労災認定が100件以上となった。また自殺者3万人のうち9千人が労働者であった。以上の事実をふまえて、厚生労働省も、この8月に過重労働・メンタルヘルス対策の在り方に係る検討会報告書を提出している。

月100時間を超える時間外労働が1ヶ月行われた場合、あるいは月45時間以上の時間外労働が2～6ヶ月行われた場合、脳・心臓疾患の発症リスクが高まる。精神疾患に関しても同様の報告がなされており、このような場合には、産業医は速やかに面接指導することが求められている。

協議会においては、防府、宇部においていずれも大企業であるが面接が行われたと報告があった。しかしその面接の方法、指導など未だ一定の物はなく、マニュアル作りが求められている。

一方、従業員が30人以下といった、中小企業では、決まった産業医もなく、面接指導も行われておらず、地域産業保健センターの役割は、重要性を増している。光市では月に1度の個別訪問産業保健指導が行われているが、月に1度の健康相談窓口の方は、ほとんど利用者がいない状況である。

産業医、産業保健スタッフの資質向上

衛生委員会の自主的取り組み

家族を通じたメンタルヘルス対策を、地域と職域の連携で進める

以上の方針が示されている。

デルタ工業からは、これらの取り組みが紹介されたが、労働環境を改善することで、企業の業績自体が向上することがしめされた。

### 資料③ 第149回 山口県医師会定例代議員会

日時:平成16年10月28日(木)午後3時～

場所:山口県医師会 6階会議室

- (1)平成16年度上半期手業実施報告
- (2)平成15年度決算報告
- (3)日本医師会代議員会報告
- (4)国民皆保険制度を守る書名活動について ー混合診療の解禁にNOー 決議文採択

#### 決議文

政府は、構造改革の名の下に経済財政至上主義に基づく改悪を行ってきたが、今また、差別医療等に繋がる「混合診療の解禁」を強行しようとしている。混合診療が解禁されれば、本来、健康保険に導入すべき医学・医療の進歩による新技術が自費扱いにされ、自費医療費の増大を招き、一部の人がしか恩恵を享受できず、国民医療の不平等を引き起こすことになる。

人の命は平等であり、生命と個人の尊厳を守るべき医療の世界に、経済的な弱肉強食(市場原理)、差別医療の論理を持ち込むことは極めて不条理であり、弱者切り捨ての政策は絶対に容認できない。また、自費医療費の増大は利潤追求を目的とした私的医療保険の参入を許し、公的医療保険が縮小・形骸化されるなど、現在、世界一と評価されている国民皆保険制度は崩壊し、国民に安心して良質な医療が平等に提供できなくなることは必至である。

さらに、現在の三位一体改革の税源移譲に伴う補助金削減案では、国の責務で行うべき医療福祉施策が削減の対象となっている。これは、憲法第25条に基づいて国民の健康を守るという国の責任を放棄する重大な問題である。全国的に格差のない医療福祉施策を実現する保障がないままに、これを容認することは出来ない。

誰でも、いつでも、どこでも安心して平等に医療を受けられる国民皆保険制度と地域医療を守るために、我々は次の事項を決議し、強く要求する。

- 1 国民皆保険制度を崩壊させる「混合診療の解禁」に断固反対する。
- 2 三位一体改革に係る医療福祉施策の財源削減に断固反対する。

平成16年10月28日

第149回山口県医師会定例代議員会

## II. 平成16年度周南三市医師会役員会

日時:平成16年11月25日(木)午後7時～

ホテル松原屋

- 1) 開会のことば
- 2) 引き受け会長挨拶
- 3) 出席役員紹介
- 4) 議事



1. 平成17年度要望額について:  
(学校医手当、予防接種、健診等出務料)
2. 各医師会からの提出議案:
  - ①改正結核予防法に対する医師会、行政の対応について(徳山)
  - ②広域救急医療対策について(光)
3. その他
- 5) 閉会のことば
- 6) 懇親会



## III. 学術講演会・月例会

### 1. ミニレクチャー

# 「当院におけるHelicobacter Pylori除菌療法の現状」

光市立光総合病院 消化器内科  
白石 慶 先生

日時:平成16年11月30日(火) 19時～

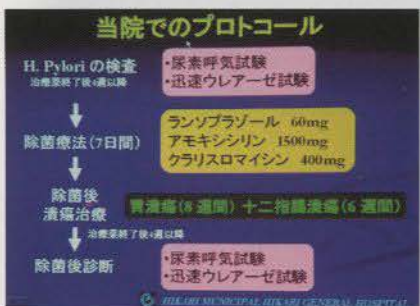
場所:光商工会館2階大会議室

ランソプラゾールによるHelicobacter Pylori除菌療法は重篤な副作用もあまり見られず、胃炎、MALT lymphoma、さらにはITP等にも有効とされている。光市立病院での治療法、成績を講演された。



- H. Pylori 除菌が認められる疾患
- 胃潰瘍、十二指腸潰瘍
  - 胃MALTリンパ腫
- H. Pylori 除菌が望ましい疾患
- 早期胃癌に対する内視鏡的粘膜切除術(EMR)後胃
  - 萎縮性胃炎
  - 胃過形成性ポリープ
- H. Pylori 除菌の意義が検討されている疾患
- Non-ulcer dyspepsia (NUD)
  - Gastro-Esophageal reflux disease (GERD)
  - 消化管以外の疾患

- H. Pylori 除菌の意義が検討されている疾患
- 消化管以外の疾患
- ・特発性血小板減少性紫斑病 (ITP)
  - ・鉄欠乏性貧血
  - ・レイノー現象
  - ・虚血性心疾患
  - ・偏頭痛
  - ・ギランバレー症候群
  - ・アトピー性皮膚炎
  - ・乾癬
  - ・慢性蕁麻疹
  - ・食物アレルギー



ランソップ

2002年12月 発売

1日服用分の薬剤を1シートにまとめて包装した組み合わせ製剤

服用時の利便性  
一薬剤の取り違いを防止し  
確実に服用

患者説明用パンフレット

ヒロリ高と胃・十二指腸潰瘍 Q&A

当院における除菌治療施行者の内訳

2001年11月～2004年11月20日まで

除菌治療施行者:163名

- 男性:女性:123名:40名
- 年齢:16歳～72歳(平均:49.4歳)
- 胃十二指腸潰瘍:158名
- 胃MALTリンパ腫:2名 ITP:3名
- 除菌成功:85名、失敗:13名、判定未施行:65名
- 除菌成功率:86.7%
- 副作用:味覚異常、下痢
- 後期合併症:十二指腸びらん、逆流性食道炎

MALT (mucosa-associated lymphatic tissue) lymphoma

- リンパ節以外の主として粘膜系に発生し、比較的良性で小型のBリンパ球や成熟した形質細胞からなる腫瘍性病変
- 低悪性度 B 細胞性悪性リンパ腫
- 内視鏡的に何ら異常を認めないものから胃炎型、隆起型、浸潤型、潰瘍型、巨大遊壁型など PCRや免疫染色も補助診断として重要
- H. Pylori の持続感染による慢性胃炎を背景に発症
- 1993年 Wotherspoon ら: H. Pylori 除菌により胃MALTリンパ腫が消退と報告

特発性血小板減少性紫斑病 (ITP)

- 紫斑などの出血症状がある。赤血球、白血球は数、形態共に正常。血小板数は10万/mm<sup>3</sup>以下。
- 何らかの機序で血小板自己抗体が産生され、それにより血小板が破壊され、血小板の寿命の短縮を来し、血小板数が減少する。
- 1998年 Gasbarrini ら: H. P 陽性の ITP患者に除菌したところ血小板数が回復したと報告。
- H. P 感染が持続するとサイトカインが誘導され慢性的に抗血小板抗体が産生される?

III.

学術講演会・月例会

2. 特別講演

「医療情勢と専門性を活かした病院経営」



公立八女総合病院  
院長 吉田 博 先生

昭和45年経営の危機に陥った際、7人の医師により立ち直った経験のある八女総合病院の現在の院長、吉田先生の病院経営を伺った。情報獲得・戦略・システム構築など病院経営も当然企業経営である。今後の病院経営はKKDからEBMであると力説される吉田先生は八女総合病院の中で一番多忙な人物であった。

1. 病院の概要

**公立八女総合病院の概要(1)**

1. 開設者 公立八女総合病院組合(1市4町2村)  
組合長 野田 国義(八女市長)  
院長 吉田 博(平成12年4月より)
2. 病床数 一般330床  
1日平均患者数 入院 303人(病床利用率91.8%)  
外来 466人(入外比率 1.53)  
平均在院日数 17.6日  
紹介率 38.3%

**公立八女総合病院の概要(2)**

3. 職員数 355人(正規職員)+200人(委託及び臨時職員)  
医師 50人 正規職員平均年齢 32.0才  
看護師 224人  
事務 27人
4. 診療科 19診療科
5. 特認可事項  
厚生労働省臨床研修指定病院  
久留米大学教育関連病院  
日本医療機能評価機構認定病院 (Ver4.0更新:平成14年10月)
6. 自治体立優良病院として自治大臣表彰(平成12年5月)
7. 電子カルテ導入  
平成15年12月稼働・富士通 EGMAIN FX

2. 基本戦略



**21世紀へ向けた  
公立八女総合病院の事業計画**

1. 地域完結型医療を目指す
2. 病診連携の充実
3. 救急医療の充実

自己評価70点の病院を80点、90点の病院へ!

3. 病診連携充実への取り組み

**公立八女総合病院の病診連携の取り組み(1)**

1. 開放型病床:30床/330床。登録医:70名(副主治医)  
平成6年6月設置  
平成6年11月:症例報告会、懇親会  
平成16年5月:10周年記念講演会、懇親会
2. 地域医療室 平成8年6月開設  
平成14年4月:専任看護師長 配置
3. 診療所、病院訪問(67診療所、5病院) 平成12年8月開設
4. 八女筑後肝疾患勉強会(年2回、18回) 平成6年9月開始
5. 病診連携勉強会(年2回、12回) 平成10年1月開始

**公立八女総合病院の病診連携の取り組み(2)**

5. 病診連携勉強会(年2回、12回) 平成10年1月開始
6. 八女糖尿病懇話会(年3~4回、15回) 平成12年9月開始
7. 八女筑後消化器疾患研究会(年3回、6回) 平成15年4月開始
8. CPC、プライマリーケア勉強会(毎月 第2月曜日)  
CPC(18:30~19:30) 医師会員の参加 平成15年4月開始  
プライマリーケア勉強会(19:30~20:00)  
医師会員、救命救急士の参加
9. 逆紹介の推進
10. 医師会員の小児夜間外来への参加 平成16年4月開始  
平日の19時~22時(月、水、金:公立八女、火、木:筑後市立)



**紹介率と逆紹介率(H12~H15)**

年度	H12	H13	H14	H15
紹介率	27.2%	29.5%	34.2%	33.9%
逆紹介率	12.4%	15.3%	17.7%	20.2%

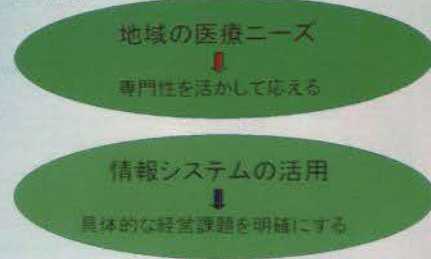
逆紹介率=逆紹介患者数/初診患者数×100%  
逆紹介患者=診療情報提供料を算定した患者

病診連携の今後の課題

1. 医療水準のさらなる向上(病院・診療所)
2. ITを活用した医療連携
3. ドクターフィーからホスピタルフィーへ
  - ・急性期特定入院加算  
(平成16年10月:38.3%、17.6日、1.53)
  - ・地域医療支援病院

医療情報と専門性を活かした病院運営

二つの柱



4. 地域の医療ニーズに応える

第41回全国自治体病院学会・静岡 2002年10月  
臨床医学分科会推薦演題

**福岡県八女・筑後医療圏におけるC型肝炎ウイルス対策**

公立八女総合病院内科<sup>1)</sup>、八女筑後医師会<sup>2)</sup>、八女保健所<sup>3)</sup>  
福岡県保健福祉部<sup>4)</sup>、久留米大学第二内科<sup>5)</sup>

草場 信秀<sup>1)</sup>、吉田 博<sup>2)</sup>、中野 均<sup>2)</sup>、横田 泰司<sup>2)</sup>  
河野 亨<sup>3)</sup>、川内 敦文<sup>4)</sup>、佐田 通夫<sup>5)</sup>

肝癌による死亡率と標準化死亡率

区分	死亡率	標準化死亡率比
全国	23.7	100
福岡県	38.0	160
八女・筑後医療圏	48.5	205

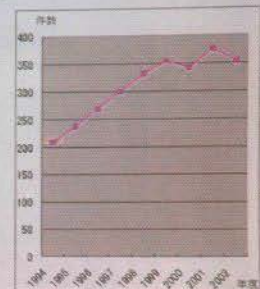
(1992~1996年:人口10万対)

八女・筑後医療圏  
市町村別HCV抗体陽性率と肝がん死亡率

市町村	HCV抗体陽性者数(人)	HCV抗体陽性率(%)	肝がん死亡率(人口10万人対)			
			粗死亡率	年齢調整死亡率	標準化死亡率比	
八女市	3,483	34.1	9.9	67.0	42.5	222.8
筑後市	7,130	64.0	8.3	49.3	32.0	176.7
豊水町	2,750	7.3	2.7	38.7	18.0	39.3
上藤町	1,590	11.6	7.3	60.3	24.8	158.2
五ヶ野町	2,053	20.7	10.2	64.8	35.5	187.2
広川町	1,758	29.7	16.9	68.9	43.1	245.4
矢部村	795	6.1	7.7	43.8	12.4	36.3
星野村	2,998	46.1	19.2	81.0	31.7	176.5
計	21,917	22.6	10.1	58.1	34.0	186.5

肝癌入院患者数

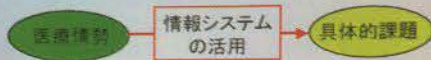
年度	件数
1994	208
1995	237
1996	269
1997	300
1998	331
1999	354
2000	342
2001	375
2002	353



5. 情報システムの活用

医療情報システムの活用

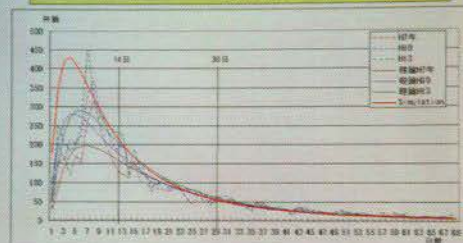
医療情勢分析から個別課題へ



1. 急性期病院加算の検討 平均在院日数のシミュレーション
2. 収益構造の分析 先進病院との比較 経営改善係数の検討
3. 医療費改定対策 医療費改定分析

平均在院日数のシミュレーション

確立密度関数: 対数正規分布  
現状(平成13年): 平均在院日数 20.5日  
病床利用率 100%  
シミュレーション条件: 平均在院日数 17.0日  
病床利用率 95%



シミュレーション結果

入院日数14日以内の患者数割合 55%から63%へ増加(約1,000件)

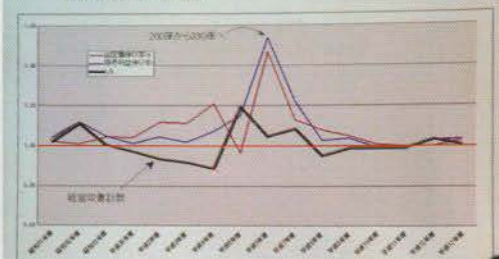
→ 入院診療システムの質的転換が必要

3条件達成時、1億6,500万円の収益が実現する

項目	前2	2003/10/1	前年対比(%)	率
件数(入院者)	5,277	5,277	100	100
平均在院日数	20.5	17.0	-22.0	-10.7
病床利用率	100%	95%	-5%	-5.0
収益	1,111,000,000	1,650,000,000	+58.4%	+52.6
1. 入院診療システム改善	0	0	0	0
2. 経営改善係数	0	0	0	0
3. 医療費改定	0	0	0	0
計	1,111,000,000	1,650,000,000	+58.4%	+52.6

経営改善係数の推移

1. 前年との損益分岐点の移動方向と大きさを計数化(変化の大きさを前年との比較)
2. 病床稼働(財政成績)の大きさに影響されない





6. 平成14年度の方針と結果

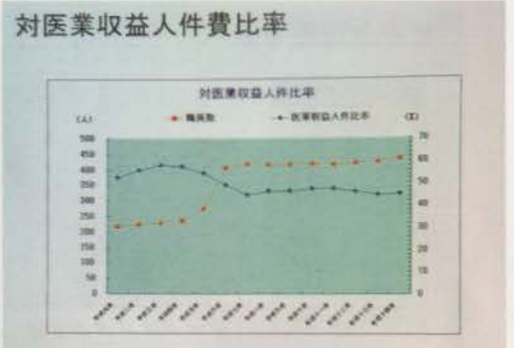
### 専門性を活かした平成14年度医療費改定対策(1)

対策	実施年度
1. 内科 欠員補充による肝臓専門医を獲得 新型INFとINF+リビリンの保険適用	H15年 6月 H13年12月
2. 外科 肝臓外科医を獲得	H14年10月
3. 透析 医師増員による体制強化	H14年 2月
4. 脳外 欠員補充による救急対応と手術増加	H15年10月
5. 眼科 手術機材の更新による診療の高度化	H14年 4月

### 専門性を活かした平成14年度医療費改定対策(2)

**急性期病院へ向けて**  
紹介率 30%の達成

**目標管理の導入**  
科の診療目標を提示する  
(紹介率・平均在院日数・収入)  
強化事項等の目標を各科から提示させる



### 目標管理 H14年度医業収益管理グラフ(Zグラフ)

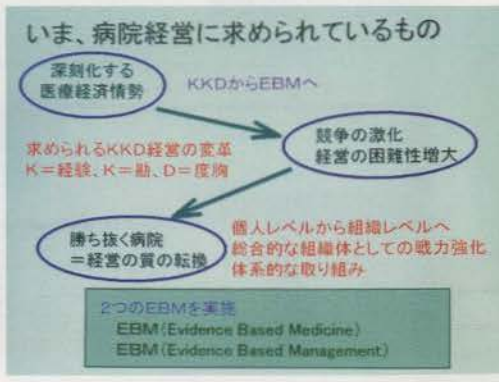
- 12ヶ月移動累計は右肩上がり、医業収益が順調に伸びている。
- 収益目標64億1,100万円に対し、65億円(101.5%)を達成。
- 対前年度比で入院収益は3.0%、外来収益は0.7%増加。

- ### 公立八女総合病院のあゆみ
1. マスタープランを立てて実行
  2. 先進医療機器の早期導入
  3. 人材教育による病院機能の充実と意識改革
  4. 業務委託による病院のスリム化
  5. 開放型病床導入による病診連携の強化
  6. 病床の相互利用
  7. 職員団体との粘り強い折衝と説得
  8. オーダリングシステムの構築と経営管理
  9. 電子カルテ導入による病院機能の充実
  10. 頑張れるスタッフ

7. 今後の経営課題

### 今後の経営課題

1. 急性期病院として勝ち抜く！  
電子カルテの導入(医療の質の向上、モチベーションの向上)  
富士通 EGMAIN FX 2003年12月稼動  
入院1日1床あたり収益37,000円が可能な診療レベルの達成
2. 収益構造の改善 外科系の強化
3. 平成15年度診療報酬改定対策  
トリプル行動  
(紹介率30%、入院日数1.8、平均在院日数17日の達成)
4. DRGへの対応  
電子カルテ導入によるDRGへの対応  
患者の病歴と診療計画の連携
5. 経営の質の向上への対策  
経営の質の向上







### 《月例会》

1. 医事紛争案件の説明（佃理事）
2. 会務報告

## リレー随筆

# 流れに棹さして

やまて小児科・アレルギー科 山手智夫

私が将来医者になりたいとはっきり考えるようになったのは、中学3年生の冬のことでした。ある朝、突然腹が痛くなり、「盲腸」と診断されました。執刀してくれたのは市内で数十床ほどの小さな（当時は大病院に見えましたが）外科病院を経営する同級生の父親でした。その威厳ある姿に敬服してしまい、「将来、自分もあのようになれたらどれほど心地よいことか」と思ったのでした。しかし、現実には厳しくそれまで受験勉強というものはまったく無縁でありましたので、私立高校を受けるということすら頭に浮かばず、歩いて10分の地元の県立高校に通うようになりました。生来のずぼらでありますので、家から通えるところということで、神戸大学を目指して1浪しました。勝算はあるかなというところまで漕ぎつけておりましたが、受験前夜に思わぬハプニングが起こったのです。もうすでに大学生となっている同級生からの「明日の試験がんばれよ」という夜の電話で起こされました。ただでさえ神経が高ぶっている受験前夜、それ以降寝付けなくなってしまい、眠るために酒を飲んだのです。いつもなら酒を飲むとすぐ心地よく眠りにつけましたが、そのときはなぜかさらに興奮して眠れず、結局2日酔いするまで飲んでしまったのでした。翌朝の頭痛と精神の動揺はいかんともし難く、あっけなく散りました。2浪になり、「無理はしない」と心に強く決め、岡山大学を受験したのでした。これが人生1つ目の転機であったように思います。大学在学中に光市出身の家内と出会い、卒業と同時に「さよなら」して地元大学に帰ることも頭をよぎりましたが、「流れに逆らわずに」と思い、国家試験が終わった直後に結婚することにしました。これが2つ目の転機です。小児科に入局し、研究者としてやっていこうとの志を立て大学院に進みました。臨床の傍ら、実験をして何度も学会発表して論文を書き、アメリカにまで留学して実験を続け、帰国してまた定期的に大学に通うという生活を続けていく中で、自分に研究者としての才能がないことがだんだんわかってきました。「無理はしない」という心の囁きに忠実に従い、大学医局をやめて、好きな臨床に徹するべく4年前に家内の里、光市にやってきました。これが3つ目の転機です。そしてやはり同じく、流れに棹さして自然に流れていると、いつの間にか自分の診療所が出来上がっていました。これは、当初、医者になろうと志した頃には、想像だにしなかった顛末です。これから流れがどこに向かっていくのか知る由もありませんが、流れに逆らう気持ちは毛頭ありません。

私は子どもの頃、近くの小川でよく笹舟を作って競争させていました。どういうわけか流れに乗ったものは、ものすごく速く、あっという間に遠くに流れて行ってしまいます。ところが流れに乗らなかったものは、いくら私が竹の棒でつついて進ませようとしても、よどみの中ぐるぐる回るばかりです。人為的な操作は自然の流れの中では無力であり、流れに乗って流れていくと快適に遠くに流れいくということ子ども心ながら知っていました。

出身校の明石高校からの同窓会報が来て、三木谷という楽天の社長が同校出身で私より3学年後輩、私の妹と同級生であることを知って驚きました。私と同じ道を少し遅れてついてきても、どこかですさまじい速さの流れに乗ると、あっという間にはるか彼方に流れいくことができるものと感心しました。

平成16年11月30日



ホームページだより

ホームページは会員にどんな利益をもたらすだろうかと考えを巡らしました。いまだ、その存在感すらあやふやなのに傲岸不遜な考えは重々承知の上です。それがどうかは別にして、もし利用するとすればどのようないいことがあるか……。何か意見がある時にメールで言える。これは会員以外にも開かれているところが味噌ですね。それから、概略が知りたい時に大体の情報が詰めてある。例えば理事会の内容が随時掲載してある。医師会名簿や理事の面々がリアルタイムに参照できる。休日当番など、変更があればその都度訂正してある。そういう意味で情報収拾に使える。などなど、……。でも、一番のメリットは会員の意見交換の場となることなんですが、今のところあまりそのように使われていないのは残念至極です。何かあれば何でも発言してください。メールでも電話でも、医師会事務局でも結構です。よろしくお願いいたします。

山口県光市 佃医院  
佃 邦夫



緑友会(遠征)成績表

平成16年11月14日 日曜日 天候 雨、曇り

NAME	OUT	GROSS	HD.CP	NET	RANK
藤村	45	90	10	80	5位
森本	41	83	5	78	4位
諏訪	49	99	9	90	7位
守田	46	91	15	76	3位
南	53	108	23	85	BB
枇榔	48	97	23	74	2位
兼清(照)	45	83	11	72	優勝
久保田	58	109	OS		
兼清(美)	51	97	OS		

次回HC:兼清→8

DC		NP	BG
NO.2 守田	NO.6 森本	NO.6 森本	森本
NO.11 森本	NO.18 藤村	NO.16 兼清	



## 連絡事項

受付		発送番号	通達文書名
月	日		
11	1	緩和ケア推進会議	第1回山口市在宅緩和ケア市民公開講座の開催について
		山医発491	新潟県中越地震災害救援義援金に緊急呼び掛けに
		山医発492	新潟県中越地震の被災者に対する医療救護活動等への参加について
	2	山医発499	妊娠4か月(12週)未満の中絶胎児の取り扱いに関する調査結果について
		山医発502	山口県救急医療施設運営費等補助金交付要綱の一部改正について
		山医発497	平成16年度及び17年度医療関係施設整備事業における医療貸付事業の融資対象者に対する個別融資相談会の開催について
		山医発500	新潟県等における急性脳炎の発生について
		山口県医師会	労務担当理事協議会の中止について
		山口県医師会	「国民皆保険制度を守る山口県民集会」のポスターについて
		日本医師会	広報活動用ビデオ送付の件
	4	医務698	医師臨床研修指導医養成講習会
		山医発505	国民皆保険制度を守る山口県民集会の動員数並びに署名運動の割り当て数について
		山口県医師会	はり師、きゅう師及びあんま・マッサージ・指圧師の施術に係る療養費の支給の留意事項等について
	8	事務連絡	平成16年山口県医師会健康スポーツ医学実地研修会出席者名簿の送付について
		山医発512	山口県医師会産業医研修会 山口県医師会産業医部会総会の開催について
		山口県医師会	経口妊娠中絶薬による健康被害事例の収集について
		山医発493	決議文の送付について
		山医連発11	西島参議院議員を囲む昼食会の開催について
		山医発510	医療機関におけるプリオン病(クロイツフェルト・ヤコブ病を含む)感染防止対策の推進について
		山医発508	盲・聾・養護学校におけるたんの吸引等の取り扱いについて
	9	山医発515	今冬のインフルエンザ総合対策の推進について(通知)
		山医互発62	災害見舞金の助成について
		山医発518	平成16年の医師の届出及び調査について
		事務連絡	第90回山口県医師会生涯研修セミナーの出席者名簿・参加証送付について
		山医発516	結核予防法の一部を改正する法律等の施行について(通知)
	10	総研54	平成16年度「日本医師会医療安全推進者要請講座」教材及び『医療安全Q&A109』の販売について
		周健815	難病講演会の開催について
		光市社会福祉協議会	第9回秋季「福祉チャリティゴルフ大会」協賛のお礼
	11	山口県医師会	「新潟県中越地震災害について」等の送付について
		山医発517	郡市医師会会長会議の開催について
		山口県医師会	新潟県中越地震による被害に関する診療報酬の請求等の取り扱いについて
		山医発505	映画「ジョンQ」鑑賞会について
		日医発857	署名運動の続行について
	13	事務連絡	山口県互助会グループ保険加入通知書の送付について
		事務連絡	DVD「今から始める喫煙防止教育」の送付について
	15	山医発519	平成16年度第3期分生命保険団体事務費の配分
	16	山医発530	山口県医師会及び日本医師会の会員数調査について
		山医発532	抗インフルエンザウイルス薬の供給等について
		山口県医師会	検査料の点数の取り扱いについて
	18	日本医師会	野中博常任理事「NHK教育視点論点」出演の件
		山医発533	平成16年度社会保険医療担当者(医科)の集団指導実施について
	22	山医発528	子ども予防接種週間の実施について
		山医発538	医師臨床研修費補助事業の実施について
	24	医務10057	救急病院の取り消しについて
		医務10058	救急病院の認定について
		医務14-8	山口県救急医療情報システムの運用状況 月報(平成16年10月)について
	25	山医発541	乳児健康診査・妊産婦健康診査等に係る参考価格について
		山医発539	「医療機関債」発行のガイドラインについて
		事務連絡	予防接種研究会・平成16年度山口県医師会学校医研修会の出席者名簿の送付について
		山医発546	インフルエンザHAワクチンの供給状況について
	29	山医発542	平成16年度乳幼児保健講習会の開催について
		山医発543	社団法人山口県医師会医師等無料職業紹介所の設立について
	30	山青少会21	平成16年度賛助会費納入のご案内

11月休日当番医報告



	内科系	外科系
11/3(水)	25	5
7(日)	14	4
14(日)	24	3
21(日)	17	4
23(水)	17	5
28(日)	21	8

あ と が き

新聞紙上に病医院の名前が掲載されることが多くなりました。情報公開というものでしょうか。年間の手術数なども掲載されます。病院統合を謀っているのですね。混合診療も通すつもりでしょう。医療費を抑えようというつもりなのですね。またレセプト返戻が増え、いらいらする毎日が続きますね。医者を潰そうというつもりなのですね…。我々は、いつまで唯々諾々とノンポリを通すつもりなのでしょうか？病医院経営に企業が参入？厳しい、昔は…と言っている時ではありません。実際貧しい人が増えています。治安もどうなることやら…我々医療スタッフ全体のイノベーションが急務では？

発行所 光医師会  
 TEL(0833) 72-2234  
 発行日 平成16年12月10日  
 発行者 河村康明  
 編集者 広報担当  
 印刷所 光市光井一丁目15番20号  
 中村印刷株式会社